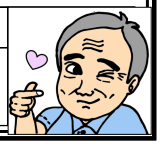
国語学習プリント　　date：　　年　　月　　日

学習内容：情景・心情を推し量る

四季の詩

＿＿年＿＿組＿＿＿番

氏名



四季の詩

春の詩

春

安西 冬衛（あんざい ふゆえ）

てふてふが一匹韃靼海峡（だったんかいきょう）を渡つて行つた。

間宮海峡＝韃靼海峡

夏の詩

耳

ジャン＝コクトー　堀口 大學（ほりぐち だいがく） 訳

私の耳は貝のから
海の響（ひびき）をなつかしむ

秋の詩

虫

八木 重吉（やぎ じゅうきち）

虫がないてる
いま　ないておかなければ
もう駄目（だめ）だというふうにないてる
しぜんと
涙（なみだ）をさそわれる

冬の詩

雪

三好 達治（みよし たつじ）

太郎を眠らせ、太郎の屋根に雪ふりつむ。
次郎を眠らせ、次郎の屋根に雪ふりつむ。

各詩の情景や心情を想像してみよう

「春」　対比構造▼　てふてふ ⇕ 韃靼

○「韃靼（だったん）」という言葉やその響きから感じとれること

異国・異質な男臭い、ゴツゴツした堅く重いイメージ＝重厚感

○「てふてふ」という言葉やその響きから感じとれること

たどたどしくたよりなくも、やわらかくかろやかなイメージ＝ふわふわ

1920年、父の赴任先であり当時日本の租借地であった大連に渡る。

翌1921（大正10年）、関節炎を患い右脚を切断したことも影響か、

孤独を感じさせる。

「耳」　七五調

○（　耳　）を（　貝のから　）にたとえている。

○そこから読み取れること

今現在、海とは離れた場所で生活しているのではないか。

郷愁のイメージ

直訳「私の耳は貝殻で、海の騒がしい音を愛する」

「虫」

○何を感じますか

限られた時間を惜しむようになく秋の虫

その先に見える死　必死な姿

騒音 ⇕ さみしさ

「雪」

○どんな雪だと思いますか

静かにしんしんと降り積もる雪

○何を感じますか

静けさ　夜の深さ　ゆっくりとした時間の流れ　安らかさ